

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年4月20日(2006.4.20)

【公表番号】特表2005-519091(P2005-519091A)

【公表日】平成17年6月30日(2005.6.30)

【年通号数】公開・登録公報2005-025

【出願番号】特願2003-572444(P2003-572444)

【国際特許分類】

A 6 1 K	35/76	(2006.01)
A 6 1 B	17/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/04	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	35/76	
A 6 1 B	17/00	3 2 0
A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	35/04	
A 6 1 K	37/02	

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月23日(2006.2.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

外科的切除の部位への弱毒化複製可能型腫瘍退縮性ヘルペスウイルスの投与により、腫瘍が外科的に切除された対象における癌を予防又は処置するための薬剤の調製における、弱毒化複製可能型腫瘍退縮性ヘルペスウイルスの使用法。

【請求項2】

癌が外科的切除の部位に存在するものである、請求項1記載の使用法。

【請求項3】

癌が癌転移である、請求項1または2記載の使用法。

【請求項4】

癌が外科的切除の部位から転移したものである、請求項3記載の使用法。

【請求項5】

癌が対象のリンパ系に存在するものである、請求項3または4記載の使用法。

【請求項6】

癌が対象のリンパ節に存在するものである、請求項5記載の使用法。

【請求項7】

ヘルペスウイルスが単純ヘルペス1型由来ウイルスである、請求項1または3記載の使用法。

【請求項8】

ヘルペスウイルスがNV1023である、請求項7記載の使用法。

【請求項9】

対象がヒトである、請求項1記載の使用法。

【請求項10】

ヘルペスウイルスが注射によって対象に投与される、請求項1記載の使用法。

【請求項11】

ヘルペスウイルスが治療用生成物をコードする異種核酸分子を含む、請求項1記載の使用法。

【請求項12】

治療用生成物が、細胞毒素、免疫調節タンパク質、腫瘍抗原、アンチセンス核酸分子、及びリボザイムからなる群より選択される、請求項11記載の使用法。

【請求項13】

第二の抗癌処置が対象に投与される、請求項1記載の使用法。

【請求項14】

第二の抗癌処置が、化学療法、生物学的療法、放射線治療、及び遺伝子治療からなる群より選択される、請求項13記載の使用法。

【請求項15】

弱毒化複製可能型腫瘍退縮性ヘルペスウイルスが対象の腫瘍にさらに注射される、請求項1から14のいずれか一項記載の使用法。